令和5年度 第1回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 令和5年7月24日（月） 午後2時から午後3時30分まで
場 所 長野市役所第一庁舎10階 会議室201
出席者 委 員：齊藤会長、岩淵委員、北原委員、霜田委員、杉山委員、小林委員、
樋口委員、小山委員、山本委員、若山委員
長野市：事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）鈴木部長、柴田課長、
千野補佐、前田補佐、五明補佐、田中係長
教育委員会事務局文化財課 石坂課長
オブザーバー 長野市文化芸術振興財団 戸谷事務局長

資 料

- 資料1-1 第二次長野市文化芸術振興計画 事業計画 令和5年度版
- 資料1-2 第二次長野市文化芸術振興計画 事業実績・事業計画 令和5年度版
- 資料1-3 令和4年度 一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事業報告書、
- 資料1-4 令和5年度 一般財団法人長野市文化芸術振興財団 事業計画書
- 資料2-1 令和5年度 文化芸術振興事業の概要
- 資料2-2 令和5年度の主な文化芸術振興事業

1 開会

2 長野市文化スポーツ振興部長あいさつ

3 長野市文化芸術振興審議会会長あいさつ

4 議事

(1) 第二次長野市文化芸術振興計画

令和4年度実施状況及び令和5年度事業計画について

(2) 令和5年度 文化芸術振興事業の概要について

(3) その他

（事務局）

<議事(1)について説明>

(委 員)

資料 1-3 の 7 ページの協賛パートナーであるが、協賛者数や金額の増減の理由をご説明いただきたい。また、企業だけでなく個人の協賛を検討したらいかがか。

(事務局)

長野市文化芸術振興財団の努力により、様々な企業へ訪問し、趣旨を説明してご協賛いただいている。個人の協賛については実施していないが、芸術館のサポーターズクラブという団体もあり、様々な事業を実施していただいている。

(委 員)

個人の協賛についてはいかがか。

(事務局)

財団と協議し検討していきたい。

(委 員)

協賛パートナーは市内か、市外の企業なのか。

(事務局)

市内が主であるが、市外の企業もある。

(委 員)

市外の企業まで広げるということはあるのか。

(事務局)

本社が市内にある、ないということではなく、主に本市に拠点がある企業に依頼しており、本社は市外にある企業もある。市外の企業に協賛いただける方法など財団とも協議したい。

(委 員)

長野市芸術館は市民のための公共ホールであり、市民のための様々な企画を打ち出していく中で、市外の大手企業に協賛してもらうことが本当にいいのかということもある。ネーミングライツにもつながっていくが、市民の皆さんが支えてくれるような形が一番いいかと思う。

そのため、市内企業で協力していただいた場合、プレートを作成し、それをできるだけ社員の皆さんが見えるところに掲示してもらっている。自分の企業が長野市の芸術文化活動を支援しているということも、社員の皆さんのプライドにもつながる。そのため、市民とい

うところにこだわりたいと最初に考えたところである。

一方で大きな企業が入ってくると逆に市内の企業は委縮してしまう面もあり、現在の方法を採用している。

また、個人の方についてもご支援いただければありがたいと思うが、まずは、芸術館を満員にすることや、喜んで来ていただくことの方が、芸術館のありようとしては良いかと思う。

(委員)

資料1-1の2、「地域の伝統的な行事に参加している」という設問であるが、具体的にはどのようなことなのか。

(事務局)

秋祭りのような地域で行っているお祭りなどを想定している。

(委員)

減少傾向にある理由を説明していただきたい。

(事務局)

コロナの影響によるお祭りの中止や、参加自粛という事情で下がってきていると分析している。

(委員)

長野市ではながの祇園祭が開催されているが、ほとんどの市民がご存知ない。

これを市民に広く知らしめる必要があるのではないかと考えている。

たまたま観光で善光寺参拝に来た方々には見てもらい、長野の素晴らしさを実感してもらっているが、中央通りから外れてしまうと、長野市民は全く知らない状況であり、祇園祭といっても、意味がわからない方がたくさんいる。

また、各町で屋台を出すにも、人が足りなくて、屋台を出すことができないという痛切な悩みがある。町によっては、大学生に呼びかけて屋台を引いているが、他の町では、人手がないためそこで止まっている状態である。

そのため、長野市民の中から引き手を募集したり、長野市からも補助を出したりするような形で、祇園祭の活性化に取り組んでもらいたい。

(事務局)

祇園祭については、確かにそういったご意見もあると聞いている。観光部局の方で補助金を支出しているが、市として他にも何かできることがないか考えていきたい。

(委員)

祇園祭については、マスコミに取り上げてもらっていないように思う。

祇園祭のお知らせや、前年度の写真などを広報したり、祇園祭が終わった時点で、今年の様子などをマスコミに取り上げてもらえると、市民の皆さんもわかると思う。

一方で、長野びんずるは、INCケーブルテレビで生中継をしている。

長野びんずるは、広く報道したり、参加の連を募集したりしているが、長野駅から善光寺までの各町が主となって行う祇園祭と、企業や学校などから参加者を募集して実施している長野びんずるとでは、規模が異なることから、びんずるの方が、大きく宣伝してもらっても、仕方ないというご意見もお聞きする。

長野びんずるだけでなく、祇園祭も大きく宣伝してもらえるとありがたいと思う。

(事務局)

どのような協力ができるのか考えてみたい。

(委員)

祇園祭に関しては、20数年前から開催されると、長野市でも経費を負担してきた。

衣装の新調や屋台の修繕に対して、市から補助している。

自分たちのお祭りだから、他の地区の人には参加してほしくないという町もあったが、県立大学の寮ができてから、学生たちが参加するようになり、ようやく若い人たちと一緒にできて楽しいという雰囲気も生まれてきた。

経費もかかるお祭りなので、青年会議所からも支援してもらいながら催行できているという状況であり、「これから」という印象である。

また、びんずる祭りは趣旨が異なっており、昭和41年に長野市が篠ノ井や松代などと合併したときに、市の一体感が全然生まれていないという話の中で、あのようなお祭りを開催し、新長野市としての一体感を生んでいくことが、びんずる祭りの本来の趣旨である。

ながの祇園祭の宣伝については、観光の関係でもあるので、祇園祭という名前がもう少し市民の皆さんに浸透してくるよう、努力をする必要がある。

ただ、祇園祭は、ようやく体制が整ってきた状態であることはご理解いただきたい。

(委員)

びんずるは市民のお祭りでもあるが、祇園祭は神社の祭りであり、意味合いが違う。今、商工会議所が祇園祭の実行委員にもなっているが、びんずるのように手を出しにくいのではと推測している。

祇園祭のおかげで、長野は日本舞踊や、お囃子といった文化が非常に発達したという特色があると思うが、イベントとしての周知は文化芸術の振興よりも観光の視点になるかと思

う。

祇園祭に人を集めるために、長野市として祇園祭をどのように位置付け、どのような支援ができるのか考えていく必要があり、また、文化芸術振興の視点からどのように考えるのかも課題だと思う。

(事務局)

<議事(2)について説明>

(委員)

資料 2-2、スライド 2 の部分であるが、ホールの管理運営について、指定管理者を来年度から新たに選定する。現在、松代文化ホールの指定管理者は県外の業者であるが、ホールの利用促進や活性化などを考えると、地元の業者の方がいいと思われる。

県外の業者に指定した理由や、今後のお考えをお聞かせいただきたい。

(事務局)

松代文化ホールの指定管理者は、前回の選定の際に提出された事業計画書等を指定管理者選定委員会で審査していただき、県外の企業となったのであるが、その際に非常に良い提案をしていただいた。

市内企業か県外企業かということで決めたわけではなく、選定時の提案内容が良かったことから決めている。

今は、県外の企業ではあるが、他の施設も指定管理を受けている企業であり、さまざまなノウハウを持っている。

松代文化ホールの運営のみならず、ワンコインコンサートや、理科教室などの様々な自主事業を実施していただいております、地元の松代地区の皆様からも非常に好評である。

(事務局)

選定委員会で選定する際には、地域貢献もポイントの一つになっており、例えば地元からの雇用などを提案していただき、判断している。

(委員)

同じくホールの運営についてであるが、資料 2-2 のスライド 2 では、東部文化ホールと松代文化ホールの利用人数を比べると、東部文化ホールより松代文化ホールの方が少ない。この利用人数には、両方とも公民館活動も含まれているかと思う。

純粋に芸術文化で利用している人数を特定するには、公民館利用と分けて考えなければならない。

もう一つは、市の中心部にもぎやかな印象が出てきているのは、発表の場の提供が貢献していると感じているが、文化ホール等の大きなホールがどのように活かされているのかという視点から見直すと、また違う実態も見えてくると思われる。

今後、2施設を指定管理にするということであるが、指定管理者を選ぶ以前にホールの利用実態をどのように考えているか、お聞かせいただきたい。

(事務局)

2館については、ホールとしての使われ方が異なっている。

東部文化ホールは、コンサートを開催するよりは、楽器や合唱の練習や、ダンスの練習という利用が多い。一方で、松代文化ホールは、固定された椅子のホールのため、発表の場という使われ方である。そのため、利用人数にも差が出てくるものと思う。

松代文化ホールの指定管理者は自主事業を多数実施しているが、現在の東部文化ホールは直営のため、貸館事業のみである。

指定管理移行後の東部文化ホールにおいても様々な自主事業等を行っていただくようになれば、市の東部地域でも文化芸術に触れる機会が増えると考えている。

(委員)

私見であるが、ホールの運営や場所の提供は非常に重要という実感があり、合理的に有効活用できないかと考えながら他の県をみると、一つの指定管理者が、3ヶ所か4ヶ所の施設を運営し、街中で芸術祭を4ヶ所同時に開催している。

今回の指定管理者の選定は、第1ステップではあるが、将来的には長野市芸術館を拠点としたホールの運営をするなど、計画が立てやすくなるような方向へ変える必要があるかと思う。

(事務局)

同様のご意見を議会や監査等からもいただいている。松代文化ホールと東部文化ホールを一つの指定管理者が運営することも一歩前進ではあるが、そこに芸術館も加えるということも将来的には考えていきたい。

(委員)

伝統芸能の継承が、非常に難しく、努力、苦勞をしているというのが現実である。長年、長野市が、獅子舞フェスティバルを開催していただけるのは本当にありがたいと感謝している。

コロナの時には非常に寂しい思いをしたが、今回の令和5年度はコロナ禍が落ち着き、コロナ禍の前に戻りつつあるということを感じている。

また、夜の神楽も提灯をつけると、昼間とは違って見えるので、夜に獅子舞フェスティバ

ルが開催されることを希望している。

子供たちも、獅子舞を継承してはいるが、中学生、高校生になると部活が始まり、神楽のことを忘れてしまい、更に大学に行ってしまうと、すっかり忘れてしまうということもあるため、近くの学校へ出かけて行くなど伝統芸能を続けていきたいと思っている。

(委員)

先般、北信美術展が県立美術館で開催された。この事業は長野市から補助していただいている。北信美術会は、北信地区を中心に、様々な市町村の方が会員になっており、長野市以外の方も参加している。風景画展においても、北信美術会の会員も参加し、長野市で開催していただいていることに感謝している。

また、長野市だけでなく、広範囲の中で文化芸術を考えていくのも必要かと思う。例えば美術館の交流や、人の交流など、将来的にも検討していただきたい。

北信美術展においても、次世代事業ということで、普段大きな作品を描けない人や、美術展に出展したことない方などを、小学校から高齢者まで募集したところ、約 50 点集まった。

次世代を育てるという観点も必要なことと思う。高齢化など共通の課題があると思うが、情報交換しながら、良い方向に持っていけたらいいと感じた。

(委員)

長野市にはホール等が多いので、音楽や舞台芸術は非常に盛んであると感じる。

また、県立美術館や信州新町の美術館には、大変よい美術コレクションがある。

他にも、野外彫刻が先駆的な活動であると思う。市内のいたるところに設置されており、連綿と続けているため、一定の量もある。野外彫刻めぐりは観光にもつながっていると思うので、もっと活用できないかと思う。

一方で、全国的にもメンテナンスが問題となっており、持続可能という視点が必要である。美術品、文化財を継続していくためには手を入れていくことが必要である。著名な作家の方々の作品もあるので、作家のためにも作品を大切に、次世代につなげるため、文化財を守ることにも心を配っていただきたい。

5 その他

6 閉会